

科 目 名
教 養 講 座 Cultural Program

2 年 後期 1 単位 選択

井 芹 浩 文
石 黒 之武久

【科目区分】

学士課程共通の学習効果との対応：1-(1)(2), 2-(3), 3-(4)

【概 要】

本学の建学精神は「体・徳・智」と表されている。健全な肉体に健全な精神が宿る。そのうえに健全な知識を身につける必要がある。この「智」を肉付けするのが教養（Culture）である。教養とは単なる学殖・多識とは異なり、一定の文化理念を体得し、それによって個人が身に付けた創造的な理解力や知識のことである。

本講座は、人間としての教養を身に付けることは豊かな人生を送るために極めて重要であるということで昭和53年から開講されている。毎年、著名な識者を講師として学外から招き、毎週金曜日に実施している。講師は多種多様な分野から選ばれており、これら先生方の講話を通じて幅広い教養と広い視野を養い、ひいては人間性豊かな人材に育ってほしいという願いを込めて開講している。

【到達度目標】

- (1) 科学技術系・人文社会系などの分野を問わず幅広い視野を身に付ける。
- (2) 人の話を聞くマナーを学ぶ。
- (3) メモを取る習慣を身に付ける。必要な情報を選択し、記録する能力を養う。
- (4) 講話への感想を書いてレポートとして毎回提出することによって表現力を養う。
- (5) 講師の厳しい体験談をじっくり聞き、困難に正面から受け止める気概を培う。
- (6) 講師の多様な話を聞いて、自分なりの判断力を身に付ける。
- (7) 現代社会の抱える諸問題に目を開いてほしい。

【授業計画】

(平成21年度実施の講演、平成22年度分は9月に掲示する)

講 師	テ ー マ
① 井 芹 浩文 石黒之武久	オリエンテーション
② 中山 峰男（崇城大学学長）	トップレベルを目指す崇城大学
③ 紀里谷和明（映画監督）	誰が不可能と言ってるんですか？
④ 上野 健爾（京都大学名誉教授）	どう学ぶか 一数学を例として一
⑤ 水谷 仁（科学誌NEWTON編集長）	科学する心を育てる
⑥（学生研修日）	
⑦ 川戸 恵子（TBSテレビシニアコメンテーター）	テレビと政治
⑧ 神田 陽子（女流講談師・崇城大学客員教授）	「中山義崇一代記」
⑨ 北沢 栄（ザ・メッセージ代表取締役）	コミュニケーション力はどう鍛えるか
⑩ 門出 政則（佐賀大学教授）	低炭素社会をめざすこれからのエネルギー
⑪ 今永 一成（福岡大学名誉教授）	ジョン万次郎の功績を振り返って
⑫ 枝廣 淳子（環境ジャーナリスト）	本当の幸せと地域のためにすべきこと、できること
⑬ 国本 武春（浪曲家）	浪曲 一理論と実演一
⑭ 早川 信夫（NHK解説主幹）	学校と地域の連携 一みんなで楽しく学校参加一

(平成22年度は全15回の予定)

【授業方法】

毎回、書き込み用のレポート用紙1枚を配る。60分間の講演を聞きながら、レポート用紙の「講演内容のメモ」欄に聞き取れた限りでの内容をメモする。講演に出てきた「キーワード」5～10程度も別の欄に書く。講演後、残り30分で「感想」欄に講演を聞いて感じたこと、考えたこと、自分自身として行動に移したいことなどを書いて提出する。

【学習到達度の評価】

講演内容を正確に聞き取れているかを講演内容メモ、キーワード、感想文などから総合的に判断する。

【評価方法】

提出された上記レポートが小テストに相当する。毎回、得点をつける。期末テストは実施しない。再試験も実施しない。

【関連科目】

なし

【教 材】

特になし。

【履修上の注意】

毎回、講演されるのは第一線で活躍されている方ばかりなので、とにかく集中力を発揮して講演を聞き、自らの問題に引き寄せて考えるという積極的な姿勢で講演に臨むこと。

【オフィスアワー】

特に設けない。